

1. 前立腺癌に対するホルモン療法中に生じた諸症状に対し漢方薬を投与した7例の検討

藤沢湘南台病院

○吉田 実、田部井 正、諏訪 裕

前立腺癌に対するホルモン療法中に生じた諸症状に対し漢方薬を投与した7例について検討を行った。症状は、重複例も含めて、7例中5例ではいわゆるホットフラッシュや熱感が、7例中3例では筋力低下や倦怠感が、1例は両下肢の浮腫がみられた。7例中5例で症状の改善が認められた。7例中再燃例が2例あり、因果関係は明らかでないものの、漢方治療開始後にPSAの上昇が止まっている。

使用した漢方薬は、八味地黄丸、柴胡加竜骨牡蠣湯、桂枝茯苓丸、補中益気湯、十全大補湯等であった。このうち、柴胡加竜骨牡蠣湯を投与した症例は、当初は足腰が弱ったとの訴えにより十全大補湯、八味地黄丸を投与したが改善がみられず、またその他にも汗をかきやすいなどの訴えがあり、腹診の所見により柴胡加竜骨牡蠣湯に変更したところ、症状が改善した。

前立腺癌のホルモン療法中にはさまざまな症状、特に熱感や倦怠感などが見られることが多く、またその症状は多彩であるため、漢方薬を用いることが有用であることが多いと思われる。また、その際に腹診を行うことで、一般的に用いられる桂枝茯苓丸等が無効な症例に対して有効な漢方薬が選択できる可能性があると思われた。